

No.	1	名称	イオンモール名古屋茶屋
整備時期	2014年6月	所在地	名古屋市港区西茶屋2丁目11

《概要》

敷地内で集めた雨水のろ過や敷地外への流出抑制など雨庭システムの実際的な効果を期待すると同時に、モデルガーデンとして地域の環境教育に活用していただくことを想定して設置されました。

小さなモデルガーデンでも仕組みを知ることにより、グリーンインフラや生物多様性保全など環境問題に思いを馳せるきっかけになり得ることを期待しています。

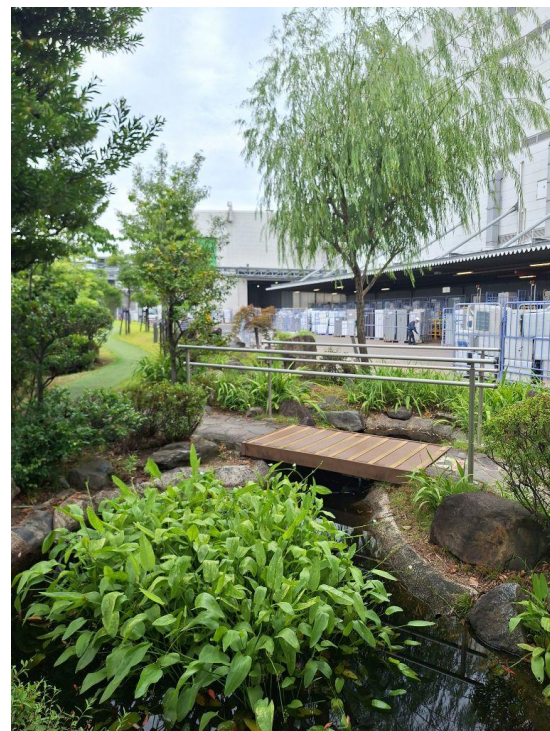


No.	2	名称	グリーンサイクル株式会社 グリーンガーデン
整備時期	2015年2月	所在地	名古屋市港区昭和町13

《概要》

ビオトープとして整備した池の水に雨水を利用しています。池の底には透水性のあるシートを設置し、水はゆっくりと地面にしみ込んでいきます。めだかやトンボなどの生き物が生育しています。

また、工場棟の屋根に降った雨を貯め、トイレの洗浄水をはじめ様々な場所で使用するなど、雨水の活用も行っています。

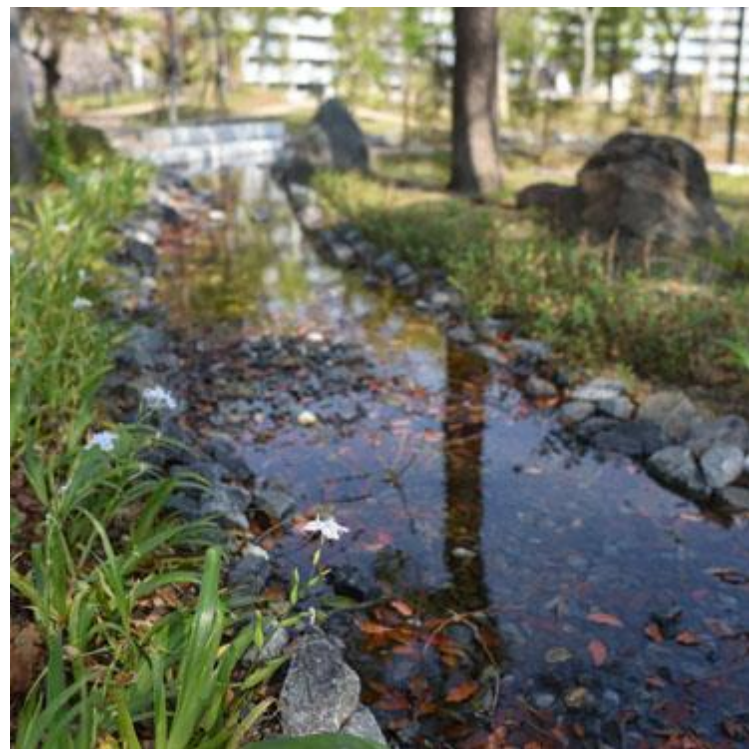


No.	3	名称	愛知県精神医療センター
整備時期	2018年8月	所在地	名古屋市千種区徳川山町4-1-7

《概要》

駐車場、芝生広場に隣接する水路にて雨水を浸透・集水させる水路を整備しています。水路途中にはビオトープ池もあり、めだかや金魚などが生育しています。

ランドスケープデザインを取り入れ、雨水排水そのものを見せることで、雨後の数日間だけ楽しめる自然の水景が見られます。



No.	4	名称	東海国立大学機構 Common Nexus（ComoNe）
整備時期	2025年3月	所在地	名古屋市千種区不老町

《概要》

緩やかな湾曲状の屋根を緑化（写真①）し、降った雨を集水桝にあつめ、その水がクスノキ並木沿いに設置された浸透管（穴が開いた管）を通り、土中に浸透することにより並木や植栽にうるおいを与えます（写真②）。

図書館前広場には雨水貯留浸透施設を設置し、降った雨を一時的に貯め、また土中に浸透もさせています。



写真①



写真②

舗装の下に、
浸透管を設置して
います。

No.	5	名称	名城公園グリーンインフラ啓発スポットの雨庭（名古屋市環境局）
整備時期	2025年10月	所在地	名古屋市北区名城1丁目（名城公園内）

《概要》

雨庭の直上に降った雨と、周囲の植栽に降った雨が流入します。雨庭には碎石や砂利が充填されており、隙間に雨水を貯留する能力やそこから地中に浸透する能力があります。

雨庭の他に生物多様性に配慮した緑化や保水性舗装といったグリーンインフラを取り入れています。



[名城公園グリーンインフラスポット（名古屋市公式ウェブサイト）](#)でも紹介しています。